

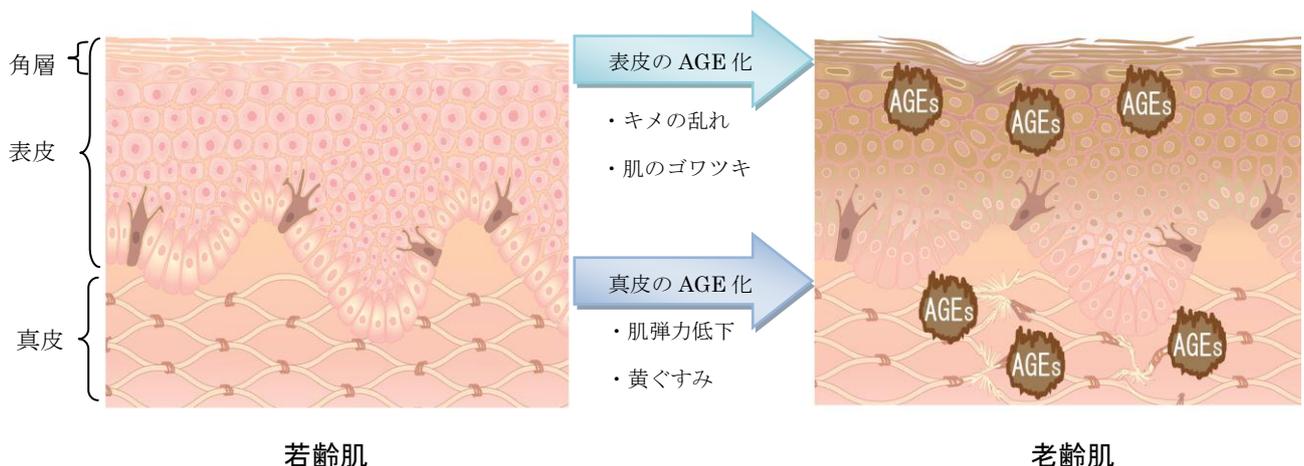
桜の花エキスの角層 AGEs 及ぼす影響について

オリザ油化株式会社は、このほど、抗糖化素材『桜の花エキス』について新たに表皮中 AGEs 除去作用、産生阻害作用を見出した。真皮の AGEs は加齢とともに増加し、皮膚弾力の低下やくすみの原因の一つと考えられている。また表皮中にも AGEs は存在し、肌のキメの乱れや角層の肥厚に影響しているとの報告がある。表皮の AGE 化に関しまだ不明な点も多いが、真皮と表皮の AGE 化の挙動が異なるとの報告もあり、真皮だけでなく表皮 AGEs へのアプローチも必要であると言える。

同社は過去において『桜の花エキス』に真皮に対する抗糖化作用(グリオキサール刺激下線維芽細胞における AGEs 産生抑制・コラーゲン格子形成保護作用、CML-collagen 刺激下線維芽細胞におけるアポトーシス抑制作用)があることは既に報告しており、今回表皮(角層)への抗糖化作用について評価を行った。

血糖値が比較的高めな 60 代男性の前腕部の角層をテープストリッピングにて採取し、桜の花エキスを含む水溶液に 1 日浸漬後、AGEs 量を蛍光試薬により検出し、岐阜薬科大学協力のもと共焦点レーザー顕微鏡にて蛍光画像を取得した。結果、桜の花エキス浸漬処理したものは、未処理と比べて AGEs 量(赤色部)が少ないことが分かった(図1)。また 30 代女性の前腕部から角層をテープストリッピングにて採取し、桜の花エキスを含む水溶液と糖化刺激作用をもつグリオキサールの混液に 37°C で 3 日間浸漬した後、AGEs 量を蛍光試薬により検出し、岐阜薬科大学協力のもと共焦点レーザー顕微鏡にて蛍光画像を取得した。結果、グリオキサール処理により AGEs 量が増加し、グリオキサール・桜の花エキス混液処理では、グリオキサール未処理と同程度の AGEs 量を示した。つまり表皮中で起きる AGEs 産生を桜の花エキスは阻害するものと考えられる。(図 2)。

以上の結果より、『桜の花エキス』は角層中の AGEs 除去作用と産生阻害作用を持ち、真皮だけでなく表皮においても糖化によるダメージから保護できる素材であると考えられる。



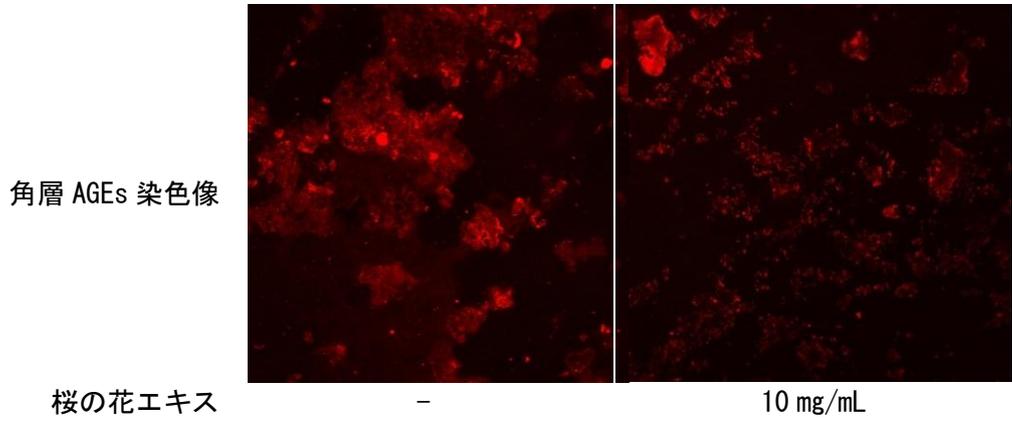


図1 桜の花エキスによる角層 AGEs 除去作用

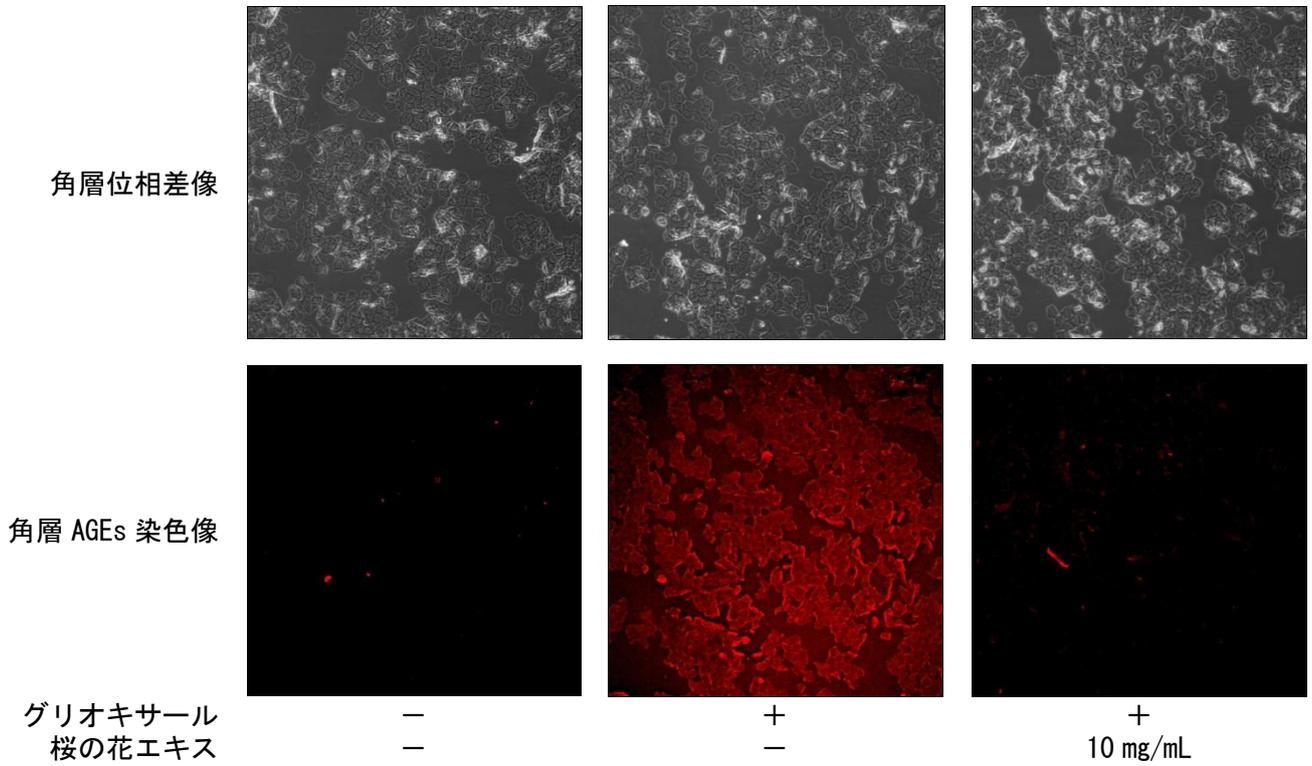


図2 桜の花エキスによる角層 AGEs 産生阻害作用